

こんにちは。嘱託員の村上です。

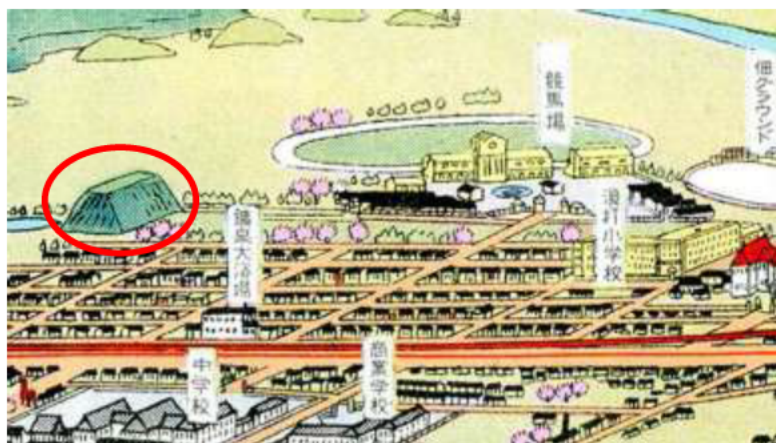
先日、昭和7年（1932）の『東奥日報』を読んでいたところ、スキーを題材にしたかわいらしい童話を見つけました。それは、4月3日付の『東奥日報』別刷付録「サンデー東奥」に掲載された「迂^{すべ}りたいスキー」という作品です。「サンデー東奥」は毎週日曜日に発行されていた文化専門の誌面で、小説や詩などの文芸作品を多く掲載していました。津島修治が初めて「太宰治」の筆名で小説を発表したのも「サンデー東奥」だったそうです。

さて、童話「迂りたいスキー」は造道に住む岩田玄氣血という人物の作品で、主人公は浪打小学校2年生の三ちゃんという男の子です。お父さん・お母さんに新しいスキーを買ってもらった三ちゃんは、さっそく小学校の近くにある「鉄砲山」のスロープへ出かけ、日が沈むまでスキーを楽しみました。しかし、この冬はなかなか雪が降らず、せつかくの新しいスキーは物置小屋にしまったままになってしまいました。その後、2月11日によろやく「青森特有の大吹雪」となって雪が積もると、夜中に浪打小学校の子どもたちのスキーがこっそり家を抜け出し、なんと諏訪沢のスキー場（砥取山附近）で大会を始めてしまう・・・というお話です。

童話の挿絵には三ちゃんが「鉄砲山」と思われるスロープを滑るようすが描かれています。この「鉄砲山」とはいったいどんな山なのでしょう？

童話の中で「鉄砲山」は「昔の練兵場の射的場」と紹介されています。練兵場は筒井村にあった歩兵第五連隊が使用していたもので、昭和3年に駒込へ移転し、跡地は住宅地（練兵町）となりました。射的場は練兵場の南側にあった射撃訓練場です。つまり、射撃訓練に使われていた山が住宅地の造成により子どもたちの遊び場へと変わったのです。

童話が発表された昭和7年に発行された「青森市鳥瞰図」（吉田初三郎作）をみると、練兵町の南側に小さな山が描かれていました。名前は書かれていませんが、この山が「鉄砲山」と考えられます。



練兵町の南側に描かれた小さな山(昭和7年発行「青森市鳥瞰図」より)

さらに調べていくと、「浪打旧射撃場スロープ」でスキーを楽しむ人々の写真を発見しました（昭和7年1月12日付『東奥日報』朝刊）。「迂りたいスキー」の作者は地域の子どもたちに親しまれている場所を童話の舞台として選んだのですね。

※今回の内容は『新青森市史』通史編第3巻などを参考にしました。